

2022年度(下半期)

事業所自己点検チェックリスト【らいぶず-サポート あおの丘：放課後デイサービス事業所】

チェック項目	評価 (1~4を記入)	【記載欄】 ・うまく工夫している点 ・具体的にできていない内容や理由 ・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 など
	1. できていない 2. あまりできていない 3. 概ねできている 4. できている	
1 サービス提供方針を明確にしている	11	
① 障害児に対して学校や家庭と異なる空間・時間・人・体験を通じて、個々の子供に応じた支援を行うことで最善の利益の保障と健全な育成を図っている。	1	感染症対策で外出の機会は少なかった。
② 保護者が障害児を育てる社会的支援や子育ての悩み等に相談に乗るなど保護者支援を行う。	2	感染症対策で希望性の面談を行えなかった 継続して、希望性の面談の調査を行っていく 事業所説明会を開催し、説明を行った。参加できなかった方には、送迎時に改めて説明を行っている
③ 運営規程や活動内容、個別支援計画等の内容について、利用者に正しく説明を行い、同意を得ている。	4	
④ 子供の地域社会への参加、インクルージョンを進め、他の子供たちも含めた集団での育ちを保障している。	1	地域の子供との交流する場の提供が現状予定がない
⑤ 障害者福祉に関する法令、子供の人権、職業倫理、社会保障、消防等事業の運営に係るすべての関係法令を遵守している。	3	呼称において、毎日確認をするなど、スタッフの意識付けを継続して行っている
2 環境・体制整備を行っている	13	
① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	3	活動スペースを取り組みで分けられている
② 職員数の配置数は適切である。	2	外出の際には、人数を増やして安全に考慮している
③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている。	2	段差が少ない活動場所を提供している
④ 障害特性に応じて個室化やスペース分けができています。	3	個室化のためのパーテーションを用意したり、個室スペースでの活動提供をしている
⑤ 療育に必要な遊具やツールの整備、視覚的に有効な掲示等がなされている。	3	個々の特性に合わせて、支援ツールを作成している。
3 社会参加・地域連携に取り組んでいる	9	
① 障害児ゆえに子供の社会生活や経験の範囲が制限されないよう、子供の社会経験の幅を広げる機会を作っている。	2	感染症対策で外部との交流ができない
② 地域において、地区の役割や行事などに関わっている。	2	
③ 社会資源を活用し、地域における障害児や保護者のニーズを掘り起こし、対応を図っている。	2	未就学児の事業所から、情報提供あり。教育、保育の期間とは情報薄い。
④ 児童発達支援センター、療育、医療、保育、教育、自立支援協議会、地域の児童クラブ、などさまざまな関係機関・団体と連携し、地域における支援のネットワーク作りに取り組んでいる。	2	関係機関との意見交換会を行っている
⑤ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	1	感染症対策で、外部との交流がなくなっている。交流の機会が再開となれば、進んで参加していく
4 職員の支援体制を整えている	16	
① サービス提供に必要な人員を配置している。	2	指定基準以上ではあるが、実働、曜日によって不足が感じられる
② 事業運営の理念・方針が設定され、職員間で遵守されている。	4	
③ 職員が心身ともに健康で意欲的に支援を提供できるような労働環境を整備している。	3	
④ 職員の知識・技術の向上のために、研修等の機会を確保している。	3	研修への参加があり、学びの場となっている
⑤ 職員間の意思疎通、支援内容の共有等を行うための時間や機会を日常的に確保している。	4	情報の共有を工夫(支援会議、日常の支援報告)し、スタッフ間の共有がスムーズになっている
5 権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	17	
① 職員による利用者への暴言や差別等の不適切行為を防ぐため、支援者間で支援を振り返り、意識を高めている。	3	呼称の取り組みを継続して行っている
② 職員による利用者への虐待行為を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	3	
③ 利用者からの苦情に対する「苦情解決体制」やマニュアルが整備されている。	3	マニュアルの整備はなされている
④ 虐待防止委員会の設置等、職員による虐待・差別行為の防止を徹底している。	4	虐待防止委員会の研修会において、虐待の学びの場となった
⑤ 個人情報の取り扱い、秘密保持に十分注意している。	4	
6 緊急時の対応のための備えができています	15	
① 「緊急時対応マニュアル」が策定されており、利用者の事故やケガ等が生じた際の対応を行っている。	3	個々の理解を継続して高めていく
② 身体拘束について、組織的決定がなされ、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載し、職員間で共有している。	3	身体拘束に関する知識を高めていく
③ 防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定して運用している。	3	
④ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	3	毎年、避難訓練を実施しており、児童とスタッフ両者の経験を高められている
⑤ 安全確保のためのヒヤリハット事例集を作成し、職員間で共有している。	3	その日の状況を付箋紙で共有している
7 業務改善の仕組みがある	15	
① 業務改善を進めるために、PDCAサイクルに広く職員が参画している。	3	意識して支援にあたっていく
② 保護者の意見を把握するための評価表、アンケート調査等を実施し、その結果を業務改善につなげている。	4	
③ サービス提供時に得られた事柄を、マニュアルや手順書の見直しに反映させている。	3	その場での共有は図られているが、具体的な見直しの業務にはつなげていない現状
④ この「自己点検チェックリスト」の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	4	

⑤ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	1	実績なし
-----------------------------------	---	------

8 アセスメントを適切に行っている	15	
① アセスメントを適切に行い、子ども心身の状況やアレルギー、障害特性等を適切に把握している。と保護者のニーズや課題を客観的に分析している。	3	個別のアセスメントを年度ごとに更新している
② 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	
③ 保護者にアセスメントの趣旨と今後の手順を適切に説明し、丁寧な聞き取りを行っている。	3	日々の様子を連絡ノートでお伝えしており、情報共有、提供のツールにもなっている
④ これまでの生育歴や支援経過も念頭において、聞き取りを行っている。	3	年度ごとにアンケートを実施している
⑤ 子供に関係する部署、機関、家族、ボランティアなどから情報を収集している。	2	感染症対策により、情報交換を行う行動機会が減っていた
9 放課後等デイサービス計画の作成を適切に行っている	12	
① アセスメントに基づき、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析し、計画書を作成している。	3	話し合いの場を設定し、様々な視点から分析を行っている
② 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	3	集団中でも自己決定を尊重する内容を提示している
③ 放課後等デイサービス計画の内容は、相談支援専門員が作成したサービス等利用計画の内容と連動している。	2	連動を意識して取り組んでいる
④ 放課後等デイサービス計画の際にできるだけ保護者に伝わりやすく、子供が関心を持てる表現を用いている。	1	保護者の方への内容となっていることが殆どである
⑤ 定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	3	6ヶ月に1回の対応(規定の対応)のみである
10 適切な支援の提供を行っている	18	
① 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	4	改善した業務日誌により、役割がスムーズに遂行されている
② 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	4	付箋紙を使用している情報共有を行い、記録としてデータを保管している
③ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	4	
④ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している。	3	個々で活動の内容を考えとりまれている。また、プランニングが難しい方には、課題提供が出来ている
⑤ が「ドライン」の総則の基本活動を踏まえ、子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ支援を行っている	3	
11 活動プログラム作成を適切に行っている	15	
① 活動プログラムの立案をチームで行っている。	4	長期休み等の活動内容を全体で考え組み立てている
② 活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	2	感染症対策での活動制限があった
③ 平日、休日、長期休暇に応じて、目的を決めて設定して立案している。	4	活動プランを、事前に保護者や関係機関に配布している
④ が「ドライン」の総則の基本活動を複数組み合わせ立案を行っている。	2	
⑤ 新たな活動プログラムの作成のために幅広く情報を集めている。	3	スタッフへの情報提供を求め、幅広く情報を集めている
12 関係機関や保護者との連携を図っている	18	
① 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している。	3	参加できる人員を確認し、適任者を判断して参加している
② 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	3	情報の共有、提供は、常に意識している
③ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	4	LINE WORKSでのやり取りを行うことで、情報共有が増えた
④ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	4	法人内での放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行するケースで、情報の共有を行っている
⑤ 他の放課後等デイサービス事業所との共通で支援する子供についての情報交換を行っている。	4	関係機関での意見交換会を行っている
13 保護者支援を行っている	12	
① 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	2	必要な情報提供は行っているが、まだまだ知識が不足している。
② 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	4	広報誌を発刊している
③ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	1	情報を集め、参加を検討しているが、参加した実績はない
④ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	4	
⑤ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	1	全般的に専門的な知識、経験は不足している。学ぶ機会が必要だと考えている

※この「自己点検チェックリスト案」は、平成30年度厚生労働科学研究費補助金「障害者の福祉的就労・日中活動サービスの質の向上のための研究」を通じて作成したツールであり、結果については、一定の目安として、今後の自事業所の取り組みを振り返るにあたって参考にさせていただくものです。

	チェック項目	評価 (合計)
1	1.サービス提供方針を明確にしている	11
2	2.環境・体制整備を行っている	13
3	3.社会参加・地域連携に取り組んでいる	9
4	4.職員の支援体制を整えている	16
5	5.権利擁護・虐待防止に取り組んでいる	17
6	6.緊急時対応のための備えができています	15
7	7.業務改善の仕組みがある	15
8	8.アセスメントを適切に行っている	15
9	9.放課後等デイサービス計画の作成を適切に行っている	18
10	10.適切な支援の提供を行っている	18
11	11.活動プログラム作成を適切に行っている	15
12	12.関係機関や保護者との連携を図っている	18
13	13.保護者支援を行っている	12
	合計	181

／260

